

幼児は何故「ケンちゃん」に魅了されるのか

—警察官の交通安全教室の腹話術にみる「笑い」—

Why do kids love “Ken-chan” ?

YPD ventriloquist captures kids’ attention and imagination

久保田 光, 山内 淳子, 山内 紀幸

Hikari Kubota, Junko Yamauchi, Noriyuki Yamauchi

概要

警察官が実施する、幼児を対象とした「交通安全教室」には、しばしば腹話術人形が登場する。警察官と腹話術人形との絶妙なやり取りに、会場は瞬く間に笑いの渦に巻き込まれていく。幼児たちはそのやり取りに惹きつけられながら、基本的な交通ルールを知らず知らずのうちに学んでいくのである。そのやり取りの中には、幼児の「笑い」を誘発していく何かが存在するはずであり、その笑いが、子どもたちの学びを促進していると考えられる。本研究は、以上の関心から、山梨県警察の協力のもと、警察官と腹話術人形「ケンちゃん」のやり取りを分析していった。具体的には、笑いの要素分析の枠組を用いながら、幼児を魅了する「ケンちゃん」の「笑い」の要素を明らかにしていった。結果、「ケンちゃん」の腹話術には、〈掛け合い〉〈歌〉〈話し方〉〈道化的振る舞い〉〈本音の発信〉〈服装・身体でのおかしな格好〉〈子どもっぽさ〉〈大人っぽさ〉〈雑な行動〉といった9の笑いの要素がみとめられた。このうち、〈子どもっぽさ〉〈大人っぽさ〉〈雑な行動〉は「ケンちゃん」の腹話術にしかみられない「笑い」の要素として新たに設定されたものであった。

1. 研究の目的

警察官が幼稚園や保育所を訪問し行う交通安全教室。そこで登場する「ケンちゃん」は、誰もが一度は見たことがある腹話術人形である。女性警察官の腹話術によって繰り広げられる、警察官と「ケンちゃん」との絶妙なトーク。会場は瞬く間に笑いの渦に巻き込まれていく。幼児たちはそのトークに惹きつけられながら、基本的な交通ルールを知らず知らずのうちに学んでいくのである。

警視庁では、1995年から2～3年ごとに、腹話術による交通安全技能を競うコンクールを開催しており、それは各警察署の交通課員が技能を磨く場となっている（毎日 jp 2012）。山梨県では、

「さちかぜ号」という交通安全教育車に乗って、警察官が幼稚園や保育所に交通安全教室を開きに来て来る。腹話術等を通じて、何を教えるか、時間はどの程度とするか、対象者の人数は1度に



何人までとするかなど、明確な基準が定められているだけでなく、それを担当する警察官は、内容・技術の向上のため、研鑽をつまなくてはならないとされている（山梨県警察本部 2007）。

では、このような交通安全教室への腹話術の導入は、なぜ、いつ頃始まったのだろうか。実はそれらについてはまだ十分に明らかにされてはいない（小町 2010）。1950年代に、警視庁のある警察官が交通安全指導の際に用いていたのが評判になり、各地で是非教えてほしいとなったとする説や、それ以前にも行っていた警察官がいたという説などがある（exite ニュース 2007）ほか、交通事故による死者数の急増という社会状況を背景に、1965年以降に警視庁や京都府警で誕生したという説もある（小町 2010）。

いずれにせよ、およそ半世紀にわたり、「ケンちゃん」は、幼児に対する交通安全教室の重要な指導者であり続けてきた。にもかかわらず、「ケンちゃん」に関する研究は皆無である。警察官と「ケンちゃん」とのやり取りの中には、幼児の「笑い」を誘発していく何かが存在するはずである。そして、その笑いが、子どもたちの学びを促進していつている。

本研究は、以上の関心から、山梨県警察の協力のもと、警察官と腹話術人形「ケンちゃん」のやり取りを分析していくものである。具体的には、笑いの要素分析の枠組を用いながら、幼児を魅了する「ケンちゃん」の「笑い」の要素を明らかにしていく。

II. 研究の方法

1. 分析対象

分析対象は、山梨県警察の巡回交通安全教室の中で行われた腹話術で、女性警察官 A と同警察官が演じる人形「ケンちゃん」とのやり取りである。この腹話術は、2012年1月27日の午前10時55分から午前11時25分の約30分間、山梨県にある X 幼稚園の多目的ホールにて約300人の園児（年少児～年長児）を対象に行われた。

2. 記録方法

警察官 A と「ケンちゃん」の様子を録画するビデオカメラ1台、園児の様子を録画するビデオ

カメラ1台、計2台のビデオカメラで記録した。

3. 分析方法

動画記録を確認しながら、警察官 A と「ケンちゃん」の言葉、口調、体の動き、表情などを文字化した。あわせて、どの箇所で幼児の笑いが発生したかを示した。その後、笑いが発生した部分の警察官 A と「ケンちゃん」のやり取りを、佐藤（2010）の笑いの要素にそって分類していった。どの要素にもあてはまらないものについては、新たな要素を設定した。結果、警察官 A と「ケンちゃん」とのやり取りにみとめられた笑いの要素は9となった（表1）。その後、この9の笑いの要素の内容について詳しく考察していった。

III. 結果と考察

1. やり取りにみとめられた「笑いの要素」

警察官 A と「ケンちゃん」とのやり取りのうち、幼児に笑いが発生した箇所（事例）を抜き出し、それらを佐藤（2010）が落語・漫才の分析を通して見出した笑いの要素を参考に分類していった。佐藤（2010）が示したどの笑いの要素にもあてはまらないものについては、新たな要素を設定した。

その結果、表1に示す通り、「掛け合い」「歌」「話し方」「道化的振る舞い」「本音の発信」「服装・身体でのおかしな恰好」「子どもっぽさ」「大人っぽさ」「雑な行動」といった9の笑いの要素がみとめられた。このうち、「子どもっぽさ」「大人っぽさ」「雑な行動」は、今回の腹話術（警察官 A とケンちゃんとのやり取り）の分析を通し

表1 警察官 A と「ケンちゃん」とのやり取りにみとめられた笑いの要素

笑いの要素	事例数 (総数100)
○ 掛け合い	16
○ 歌	1
○ 話し方	1
○ 道化的振る舞い	34
○ 本音の発信	5
○ 服装・身体でのおかしな恰好	6
● 子どもっぽさ	17
● 大人っぽさ	17
● 雑な行動	3

て新たに設定された要素である。

なお、笑いが発生した事例数は86であったが、1つの事例に、2種類以上の笑いの要素がみとめられたものがあったため、表1の事例総数は100となっている。表1に見る通り、笑いの発生事例は「道化的振る舞い」で最も多く、続いて「子どもっぽさ」「大人っぽさ」「掛け合い」となっていた。

また、これら9の笑いの要素に分類された事例は、それぞれさらに細かなカテゴリーで分けることができた。以下にそれら下位カテゴリーとその該当事例をみていく。

2. 「掛け合い」の分類と事例

(1) 「掛け合い」の分類

笑いの要素「掛け合い」に分類された事例は16あった(表1)。これらはさらに「スピード感のあるツッコミ」「スピード感のある相づち」という2つの下位カテゴリーに分けることができた(表2-1)。

「スピード感のあるツッコミ」とは、話し手の話に対して、素早く的確にツッコミの言葉を発することであり、「スピード感のある相づち」とは、話し手の話が終わる前、または、終わってすぐなどに素早く相づちを入れることである。

表2-1 「掛け合い」事例の分類結果

下位カテゴリー	事例数
スピード感のあるツッコミ	7
スピード感のある相づち	9

表2-2 「掛け合い」(「スピード感あるツッコミ」「スピード感ある相づち」)の事例

警察官 A	今日はね、
ケンちゃん	うん。
警察官 A	大事な勉強に来ただけど、
ケンちゃん	勉強！？嫌い！(ブイ！っと横を向いてしまう)
警察官 A	嫌！(と言って素早く反応し、ケンちゃんの発言・行動を阻止しようとする)《スピード感のあるツッコミ》
子どもたち	〈笑う〉
警察官 A	“勉強嫌い！”じゃあないんだよ。今日は、大切なお勉強に来ました。
ケンちゃん	そうだね。
警察官 A	さっきさ、お友達がなんかお歌を一生懸命歌ってくれたの。さっきお巡りさん、ここで聞いてたんだけど…
ケンちゃん	何歌ってたの？
警察官 A	北風小僧の…
ケンちゃん	かんたろう！《スピード感のある相づち》
子どもたち	〈笑う〉

(2) 「掛け合い」の事例

表2-2は、「掛け合い」(「スピード感あるツッコミ」「スピード感ある相づち」)の事例である。

「ケンちゃん」が「勉強！？嫌い！」と発した言葉に対して、その発言を慌てて取り消そうとするかのように、素早く「嫌！」(「そんなこと言ったら嫌！」の意味)と、警察官 A がツッコミの言葉を発している(「スピード感あるツッコミ」)。

また、警察官 A が「北風小僧のかんたろう」と言おうとしたときに、その「かんたろう」の部分を取られ、警察官 A よりも先にケンちゃんが言葉を発している(「スピード感ある相づち」)。

ここから、「ケンちゃん」と「警察官 A」のこうしたスピード感のあるやり取りが、幼児の笑いを誘う要因になったのではないかと考えることができる。

3. 「歌」の分類と事例

(1) 「歌」の分類

笑いの要素「歌」に分類されたのは1事例のみであった(表1)。これについては、「大きな歌い方」という下位カテゴリーが設定できた(表3-1)。

表3-1 「歌」事例の分類結果

下位カテゴリー	事例数
大げさな歌い方	1

表3-2 「歌」(「大げさな歌い方」)の事例

警察官 A ケンちゃん	はい、じゃあ歌ってください。 せーんせーいおーはようございーますー・・・(高い声で歌い、体を左右に大きく動かしながら幼稚園の歌を歌う)《大げさな歌い方》
子どもたち	〈笑う〉

(2) 「歌」の事例

表3-2は「歌」(「大げさな歌い方」)の事例である。

園児が上手に歌を歌っていたという話を警察官Aがすると、ケンちゃんも歌を歌いたいと言出し、X幼稚園の歌を歌い出す場面である。かん高い声でリズムに乗って体を左右に大きく動かしながら歌うケンちゃんの姿を見た幼児に、笑いが発生していた。

4. 「話し方」の分類と事例

(1) 「話し方」の分類

笑いの要素「話し方」に分類されたのは1事例のみであった(表1)。これについては、「突然のリズムにのった話し方」という下位カテゴリーが設定できた(表4-1)。

(2) 「話し方」の事例

表4-2は「話し方」(「突然のリズムにのった話し方」)の事例である。

横断歩道の渡り方を、ケンちゃんがモデルとなって行う場面で、左右を確認し、横断歩道を渡るというときに、「さっさ、さっさ、あーらえっ

表4-1 「話し方」事例の分類結果

下位カテゴリー	事例数
突然のリズムにのった話し方	1

表4-2 「話し方」(「突然のリズムにのった話し方」)の事例

警察官 A ケンちゃん 子どもたち	そうそうそう。車が止まってくれたことを確かめて、渡りましょう。 さっさ、さっさ、あーらえっさっさ！ほいさっさ！《突然のリズムにのった話し方》 〈笑う〉
警察官 A 子どもたち	やめなさい！（と言ってケンちゃんと目を合わせる） 〈笑う〉
警察官 A	道路を渡る時は真剣に渡るんだよ！ふざけて渡らないよ！

さっさ！ほいさっさ！」と、いきなりリズム感のある言葉を発し、幼児に笑いが発生していた。真面目であるべき場面での突然のリズム感ある言葉が、幼児の笑いを誘うものであったことがうかがわれる。

5. 「道化的振る舞い」の分類と事例

(1) 「道化的振る舞い」の分類

笑いの要素「道化的振る舞い」に分類され事例は34あった(表1)。これらはさらに「オーバーリアクション」「無知」「間違った理解・答え」「おもしろい動き」「トボケ」「予想外な行動」「繰り返し」という7つの下位カテゴリーに分けることができた(表5-1)。

(2) 「道化的振る舞い」の事例

表5-2-1は、「道化的振る舞い」(「オーバーリアクション」「繰り返し」)の事例である。

警察官Aがくしでケンちゃんの髪の毛をとかそうとするが、あまりのごまごまにくしがスムーズに通らずひっかかってしまう。髪を引っ張られ、ケンちゃんは思いっきり後ろや横に倒れながら、「イテテテテテ・・・」と言う。この「オーバーリアクション」とも言える大きな動きが幼児の笑いを誘っていたと推測される。

また、この場面では、髪を引っ張られて倒れるという一連の動作が3回繰り返され、その度、笑

表5-1 「道化的振る舞い」事例の分類結果

下位カテゴリー	事例数
オーバーリアクション	5
無知	4
間違った理解・答え	9
おもしろい動き	3
トボケ	2
予想外な行動	1
繰り返し	10

表5-2-1 「道化的振る舞い」(「オーバーリアクション」「繰り返し」)の事例

警察官 A	ちょっと待っててよ。…さ！くしを持ってきました。(くしを出す)
ケンちゃん	くし？
警察官 A	そうそうそう！ケンちゃんさ、髪の毛ほさほさだからさ、お巡りさんが、ちょっとケンちゃんの髪の毛をとかしてあげようかなーと思って。
ケンちゃん	かっこよくして！
子どもたち	〈笑う〉
警察官 A	いいよ！ちょーっと待っててね。お友達ね。はい、じゃあケンちゃんいくよー！（ケンちゃんの髪を乱暴にとかす）
ケンちゃん	<u>(ケンちゃんの髪にくしがひっかかり、頭が後ろに倒れてしまう) イテテテテ…</u> 《オーバーリアクション》
子どもたち	〈笑う〉
ケンちゃん	<u>(横向きにとかすと、今度は頭が横に倒れてしまう) イテテテテ…</u> 《繰り返し》
子どもたち	〈笑う〉
警察官 A	(ケンちゃんと顔を見合わせる) ちょーっと、ケンちゃんの髪の毛すごいごわごわでばりばり。くしが通らない！
ケンちゃん	そんなことない！
子どもたち	〈笑う〉
警察官 A	そんなことない？じゃあ、もう一回だけね。きれいにしようね。はい。(ケンちゃんの髪を乱暴にとかす)
ケンちゃん	<u>(頭が後ろに倒れてしまう) イテテテテ…</u> 《繰り返し》
子どもたち	〈笑う〉

表5-2-2 「道化的振る舞い」(「間違った理解・答え」)の事例

警察官 A	お父さんやお母さんからもらった大切な、一個しかない命。
ケンちゃん	一個しかないんだ。
警察官 A	そう！一個しかない命。ケンちゃん、うっかり道路から飛び出しちゃって、
ケンちゃん	飛び出しちゃって！
警察官 A	うん！向こうから来た早い車にはねられて！
ケンちゃん	うん！
警察官 A	大切な命落としたら？
ケンちゃん	拾う！《間違った理解・答え》
警察官 A	え！？(ケンちゃんと顔を見合わせて驚く)
子どもたち	〈笑う〉えー！？
警察官 A	命って何？落としたら拾えるの？
子どもたち	(それぞれで答える) 拾えなーい！
警察官 A	拾えない。
ケンちゃん	砂がついちゃった。《間違った理解・答え》
警察官 A	砂がついちゃったじゃないじゃん！
子どもたち	〈笑う〉

いが発生していた。こうした「繰り返し」も幼児の笑いを誘発するものであることがわかる。

表5-2-2は、「道化的振る舞い」(「間違っ
た理解・答え」)の事例である。

「大切な命を落としたら？」という警察官Aの言葉に対して「拾う!」,「(命は)拾えない」という警察官Aの言葉に対しても「砂がつിച്ചった」など、ケンちゃんがの外れなことを言うと、幼児に笑いが発生していた。自分たちにもわかる明らかな間違いが、幼児の笑いを誘うものであることがうかがわれる。

6. 「本音の発信」の分類と事例

(1) 「本音の発信」の分類

笑いの要素「本音の発信」に分類された事例は6あった(表1)。これらについては、「腹話術へのツッコミ」という下位カテゴリーが設定できた(表6-1)。

(2) 「本音の発信」の事例

表6-2は「本音の発信」(「腹話術へのツッコミ」)の事例である。

ケンちゃんに帽子を片手で乱暴に被せる警察官

表6-1 「本音の発信」事例の分類結果

下位カテゴリー	事例数
腹話術へのツッコミ	6

表6-2 「本音の発信」(「腹話術へのツッコミ」)の事例

警察官 A	違うんだよね。命を落とすっていうことは、
ケンちゃん	うん。
警察官 A	死んじゃうっていうことなんだよ。
ケンちゃん	え!?死んじゃう!?えー——————(かん高い声をだし、後ろに倒れながら、とても驚く)
警察官 A	(倒れてしまったケンちゃんを起こして)びっくりしたね。
子どもたち	〈笑う〉
警察官 A	びっくりして帽子が落ちちゃったね。(ケンちゃんを起こしながら)
警察官 A	はい。じゃあ、ケンちゃん、もう一回帽子被せるからね。よいしょ。(雑に帽子を被せる)
ケンちゃん	見えない!
子どもたち	〈笑う〉
警察官 A	あー!ごめんごめん!ごめんね。(少し雑に被せる)
ケンちゃん	ちゃんとして!
子どもたち	〈笑う〉
警察官 A	お巡りさんにも都合があるんだよね。
ケンちゃん	<u>片手だからね。</u>
警察官 A	<u>そう、片手だから…</u> ◀腹話術へのツッコミ▶
子どもたち	〈笑う〉

Aに、ケンちゃんが「ちゃんとして!」と言う。

「お巡りさんにも都合があるんだよね」と答える警察官Aに、「片手だからね」とケンちゃんがツッコミを入れるという場面である。「ケンちゃんは本当はお巡りさんが片手で動かしている人形」という現実はいったん脇において、皆が楽しんでいる空間の中で、タブーとも言えるその「本音」をケンちゃん自身がいきなり発信しているのである。幼児にもこの面白さがわかったようで、笑いが発生していた。

7. 「服装・身体でのおかしな恰好」の分類と事例

(1) 「服装・身体でのおかしな恰好」の分類

笑いの要素「服装・身体でのおかしな恰好」に分類された事例は5あった(表1)。これらについては、「荒れた髪型」「ありえない動作」という2つの下位カテゴリーが設定できた(表7-1)。

(2) 「服装・身体でのおかしな恰好」の事例

表7-2-1は、「服装・身体でのおかしな恰好」(「荒れた髪型」)の事例である。

警察官Aがケンちゃんの髪をとかしてあげることになり、ケンちゃんの髪をとかし始めるが、髪の毛がごわごわでくしが通らないという場面である。警察官Aが、ケンちゃんの髪の毛がごわごわであるためにくしが通らないこと指摘し、幼

表7-1 「服装・身体でのおかしな恰好」
事例の分類結果

下位カテゴリー	事例数
荒れた髪型	3
ありえない動作	2

表7-2-1 「服装・身体でのおかしな恰好」(「荒れた髪型」)の事例

警察官 A	いいよ！ちょーっと待っててね。お友達ね。はい、じゃあケンちゃんいくよー！（ケンちゃんの髪を乱暴にとかす）
ケンちゃん	（ケンちゃんの髪にくしがひっかかり、頭が後ろに倒れてしまう）イテテテテテ…
子どもたち	〈笑う〉
ケンちゃん	（横向きにとかすと、今度は頭が横に倒れてしまう）イテテテテテ…
子どもたち	〈笑う〉
警察官 A	（ケンちゃんと顔を見合わせる）ちょーっと、ケンちゃんの髪の毛すごいごわごわでばりばり。くしが通らない！《荒れた髪型》
ケンちゃん	そんなことない！
子どもたち	〈笑う〉

表7-2-2 「服装・身体でのおかしな恰好」(「ありえない動作」)の事例

警官 A	あ！ケンちゃんとお友達は向き合ってる。
ケンちゃん	向き合ってる。
警官 A	そうなんです。お顔とお顔がね、見えます。だから、右が逆になっちゃったんだ。
ケンちゃん	逆か！じゃあこうすりゃいいんだ！（と言って顔だけ真後ろを向く）《ありえない動作》
警官 A	（とっさに顔を戻す）やめて！！
子どもたち	〈笑う〉

児から笑いが発生していた。

表7-2-2は、「服装・身体でのおかしな恰好」(「ありえない動作」)の事例である。

ケンちゃんと幼児は向き合っているため、左右が反対になるということを警察官Aが言う場面である。ケンちゃんは幼児と左右を同じにしようと、「こうすりゃいいんだ！」と言って、顔だけくると真後ろに向ける。警察官Aがあわてて元に戻す。人間の体ではありえない動作に対して幼児からは笑いが発生したと推測される。

8. 「子どもっぽさ」の分類と事例

(1) 「子どもっぽさ」の分類

笑いの要素「子どもっぽさ」に分類された事例は17あった(表1)。これらはさらに「無邪気」「正直」「言葉の間違え」「わがまま」「行儀の悪さ」という5つの下位カテゴリーに分けることができた(表8-1)。

(2) 「子どもっぽさ」の事例

表8-2は「子どもっぽさ」(「行儀の悪さ」

「無邪気」)の事例である。「手をよく洗って、うがいをするといいよ」という警察官Aの言葉に、ケンちゃんが「ごろごろごろごろ…」といきなりうがいを始めるという場面である。ケンちゃんがその場で「べっ！」と口の中の水を勢よく出す仕草をすると幼児に笑いが発生した。日常生活の中でお行儀が悪いこととして、自分たちがしてはいけないと考えていることを、お構いなしに元気よくやってしまう姿が、幼児の笑いを誘うものであることがうかがわれる。また、警察官Aの「挨拶するよ」という言葉に、「うーんと大きい声！」「絶対勝つ！」とケンちゃんが無邪気に気合を入れている場面でも、幼児に笑いが発生していた。

表8-1 「子どもっぽさ」事例の分類結果

下位カテゴリー	事例数
無邪気	9
正直	1
言葉の間違え	3
わがまま	2
行儀の悪さ	2

表8-2 「子どもっぽさ」(行儀の悪さ)「無邪気」の事例

ケンちゃん	風邪ひいてないかい？
子どもたち	〈笑う〉
警察官 A	大丈夫ー？インフルエンザとかね、
ケンちゃん	悪い菌が流行ってた。
子どもたち	〈笑う〉
警察官 A	悪い菌が流行ってたんです。お友達大丈夫？やっぱりさ、手をよく洗って、うがいをするといいよ。
ケンちゃん	<u>ごろごろごろごろ・・・(うがいの素振り)・・・ぺっ！</u> 《行儀の悪さ》
警察官 A	やめなさいよ！（ケンちゃんの口に手をあてる）
子どもたち	〈笑う〉
警察官 A	ごめんねー。さ、じゃあね、
ケンちゃん	うん。
警察官 A	ケンちゃんね、お行儀よくしてないと恥ずかしいよ。300人もいるんだから。
ケンちゃん	そんなにいるの！？
警察官 A	そうなんです。さ、今日はね、ほら、X 幼稚園のお友達もみんなね、お利口さんだからね。
ケンちゃん	お利口さん？
子どもたち	〈笑う〉
警察官 A	だからね、ケンちゃんもおばかさんをやってると困るんだよ。じゃあね、
ケンちゃん	うん。
警察官 A	朝の挨拶しよ。
ケンちゃん	挨拶ってなんだっけ？
警察官 A	え！？
子どもたち	〈笑う〉おはようございます、だよー！
警察官 A	おはようございます、だよね。さ、じゃあね、ケンちゃんね、お友達と元気よく朝の挨拶するよ。
ケンちゃん	<u>ぼくね、うーんとでっかい声！</u> 《無邪気》
子どもたち	〈笑う〉
警察官 A	うん。そっか。うーんと大きい声で言って！でも今日は300人もいるからさ…
ケンちゃん	<u>ぼく絶対勝つ！</u> 《無邪気》
子どもたち	〈笑う〉
警察官 A	え！？ケンちゃんね、勝つって言ってるんだけど…
ケンちゃん	<u>(さっきよりも勢いよく) でっかい声で勝つ！！</u> 《無邪気》
子どもたち	〈笑う〉

こうしたケンちゃんの「子どもっぽさ」に、幼児は、自分と同等、あるいは自分より幼い存在としてケンちゃんをとらえ、共感したり、かわいと感じたり、優越感を感じたりしながら笑っていたのではないかと思われた。

9. 「大人っぽさ」の分類と事例

(1) 「大人っぽさ」の分類

笑いの要素「大人っぽさ」に分類された事例は17あった(表1)。これらはみな、上で見てきた「子どもっぽさ」とは対称的に、ケンちゃんがいきなり大人っぽくふるまっている事例である。これら17事例はさらに「お世辞」「現金さ」「知った振り」「おじさんチック」「乙女チック」「上から口調」「真面目な発言」という7つの下位カテゴ

リーに分けることができた(表9-1)。

(2) 「大人っぽさ」の事例

表9-2は「大人っぽさ」(「上から口調」「お世辞」「おじさんチック」「真面目な発言」)の事例である。なお、これは、警察官Aとケンちゃんがステージに登場してすぐの場面である。

表9-1 「大人っぽさ」事例の分類結果

下位カテゴリー	事例数
お世辞	3
現金さ	1
知った振り	1
おじさんチック	3
乙女チック	1
上から口調	6
真面目な発言	2

表9-2 「大人っぽさ」の事例

警察官 A	あ、あ、聞こえる？（マイクテストをする）
ケンちゃん	聞こえるか？（子どもたちに確認する）《上から口調》
警察官 A	大丈夫。ケンちゃんの声、聞こえるよ。
子どもたち	〈笑う〉
ケンちゃん	いっぱいいるじゃん！（背筋をピン！と伸ばして）
警察官 A	いっぱいだね。今日はね、大勢いる幼稚園に来たんです。
ケンちゃん	ここどこ？
子どもたち	〈笑う〉
警察官 A	X幼稚園に来ました。
ケンちゃん	X幼稚園！
警察官 A	そうなんです。
ケンちゃん	あの有名な！？（警察官 B の顔を覗き込む）《お世辞》
警察官 A	そう！その有名な X 幼稚園に来ました。
子どもたち	〈笑う〉
警察官 A	今日はね、
ケンちゃん	うん。
警察官 A	お友達がたくさんいるの。
ケンちゃん	どのくらいいるのなか？
警察官 A	300人ぐらいいるらしいよ。
ケンちゃん	うーわ！
子どもたち	〈笑う〉
警察官 A	はいじゃあね、ここに座るからね。座りますよ。
ケンちゃん	あーどっこいしょ。《おじさんチック》
警察官 A	あーどっこいしょ。
子どもたち	〈笑う〉
警察官 A	さ、今日はね、
ケンちゃん	うん。
警察官 A	大勢のお友達が待っててくれたの。
ケンちゃん	風邪はひいていないかい？《おじさんチック》
子どもたち	〈笑う〉
警察官 A	大丈夫ー？インフルエンザとかね、
ケンちゃん	悪い菌が流行ってた。《真面目な発言》
子どもたち	〈笑う〉

警察官 A がマイクテストを行っているとき、ケンちゃんが「聞こえるか？」と、まだ挨拶をしていないにも関わらず、いきなり「上から口調」で子どもたちに話しかける。また、警察官 A が X 幼稚園に来たことをケンちゃんに伝えると、「あの有名な！？」とケンちゃんが今度は逆に「お世辞」を言う。その度、笑いが発生していた。椅子に座る際には「あーどっこいしょ」と「おじさんチック」に言い、風邪の話になると、「風邪はひいていないかい？」と再び「おじさんチック」に発言する。ケンちゃんのいきなりのおじさん化にも笑いが発生していた。また、風邪の話の続きでは、「悪い菌が流行ってた」といきなり「菌」というやや難しい言葉を使って「真面目な発言」をする。ここでも笑いが発生していた。

かわいい子どもの姿をしながら、「大人」のように振る舞う。そのギャップが、幼児の笑いを誘っていたのではないかと推察された。また、子どもっぽくなったり、大人っぽくなったりといった変化も幼児を惹きつけているのではないかと思われた。

10. 「雑な行動」の分類と事例

(1) 「雑な行動」の分類

笑いの要素「雑な行動」に分類された事例は3あった（表1）。これら3事例はさらに「雑な世話」「荒っぽい扱い」という2つの下位カテゴリーに分けることができた（表10-1）。

表10-1 「雑な行動」事例の分類結果

下位カテゴリー	事例数
雑な世話	2
荒っぽい扱い	1

表10-2 「雑な行動」(「雑な世話」)の事例

警察官 A	違うんだよね。命を落とすっていうことは、
ケンちゃん	うん。
警察官 A	死んじゃうっていうことなんだよ。
ケンちゃん	え!? 死んじゃう!? えー—————! (かん高い声をだし、後ろに倒れながら、とても驚く)
警察官 A	(倒れてしまったケンちゃんを起こして) びっくりしたね。
子どもたち	〈笑う〉
警察官 A	びっくりして帽子が落ちちゃったね。(ケンちゃんを起こしながら)
警察官 A	はい。じゃあ、ケンちゃん、帽子被せるからね。よいしょ。(雑に帽子を被せる) <<雑な世話>>
ケンちゃん	見えない!
子どもたち	〈笑う〉

(2) 「雑な行動」の事例

表10-2は「雑な行動」(「雑な世話」)の事例である。

命を落とすことは死んでしまうことだと知り、驚きのあまり後ろに倒れ、帽子を落としてしまったケンちゃんに、警察官 A が帽子を被せなおすという場面である。それまで優しく丁寧なイメージだった警察官 A がいきなり雑に帽子を被せ、ケンちゃんは前が見えず「見えない!」と抗議し、幼児に笑いが発生した。警察官 A の予想外な行動や、自分たちと同じ子どもである「ケンちゃん」が大人に雑に扱われ、それに対して負けずに抗議するといった姿が、幼児の笑いを誘うものであることがうかがわれた。

IV. 総合考察

本研究では、笑いの要素分析の枠組を用いながら、幼児を魅了する「ケンちゃん」の「笑い」の要素を明らかにしていった。具体的には、警察官 A と「ケンちゃん」とのやり取りのうち、幼児に笑いが発生した箇所(事例)を抜き出し、それらを佐藤(2010)が落語・漫才の分析を通して見出した笑いの要素を参考に分類していった。佐藤(2010)が示したどの笑いの要素にもあてはまらないものについては、新たな要素を設定した。結果、「ケンちゃん」の腹話術には、「掛け合い」「歌」「話し方」「道化的振る舞い」「本音の発信」「服装・身体でのおかしな格好」「子どもっぽ

さ」「大人っぽさ」「雑な行動」といった9の笑いの要素がみとめられた。このうち、「子どもっぽさ」「大人っぽさ」「雑な行動」は新たに設定された要素であり、本研究では、こうした「ケンちゃん」の腹話術にしかみられない「笑い」の要素も発見することができたと言える。同時に、落語・漫才にはあるが、幼児を対象とした「ケンちゃん」の腹話術にはない「笑い」の要素(「擬人化」「偉人の凡人化」「虚栄心をうつ」など多数)も明らかにできた(表11)。

また、「ケンちゃん」の腹話術にみとめられた9の笑いの要素は、それぞれさらに細かなカテゴリーに分けることができた(表12)。幼児は何故「ケンちゃん」に魅了されるのか。その答えは、表12からうかがいしることができる。警察官 A とケンちゃんは終始リズムのよいやり取りを続けていた。その中で、「スピード感のあるツッコミ」「スピード感のある相づち」といったテンポのよい「掛け合い」が、子どもたちの笑いを生む事例は多数認められた。また「笑い」の王道とも言える「道化的振る舞い」も幼児を魅了するもので、「オーバーリアクション」「間違った理解・答え」「トボケ」といった「道化的振る舞い」などが、幼児に笑いを発生させる場面は最も多くみとめられた。そのほか、「大げさな歌い方」、真面目な場面での「突然のリズムにのった話し方」、タブーをやぶる「本音の発信」、「おかしな格好」などが、幼児を笑いの渦に巻き込んでいった。ま

表11 落語・漫才・ケンちゃんの腹話術にみる「笑い」の要素

笑いの要素	落語	漫才	腹話術(事例数)
○掛け合い		○	○ 16
・ボケ役とツッコミ役	○	○	
・思い通りに行かせない	○	○	
・擬人化	○		
・偉人の凡人化	○		
・あるべき姿からはずす	○		
・状況の極端化	○		
・愚直解釈	○	○	
○歌		○	○ 1
・言葉遊び	○	○	
○話し方	○	○	○ 1
○道化的振る舞い	○	○	○ 34
○本音の発信	○	○	○ 5
・虚栄心をうつ	○		
・恫喝	○		
・極端な喜怒哀楽・期待・心配	○		
・非現実的・非常識な話	○		
・頓知・頓才	○		
○服装・身体でのおかしな恰好		○	○ 6
・ギャグ		○	
・相方の身体的・性格の特徴，家庭的事情などに話を絡める		○	
●子どもっぽさ			○ 17
●大人っぽさ			○ 17
●雑な行動			○ 3

た、優しそうな警察官 A にいきなりケンちゃんが「雑に世話」され、負けずに抗議するといった様子も、幼児を笑わせていた。特に興味深かったのは、ケンちゃんの「子どもっぽさ」「大人っぽさ」による笑いである。ケンちゃんは、ときに「子どもっぽく」、ときに「大人っぽく」振る舞っては幼児を笑わせていた。あるときは、幼児と同じ目線、またはそれ以下の目線になって語り、またあるときは、幼児よりもはるかに大人の目線になって語っていた。ケンちゃんの「子どもっぽさ」に、幼児たちは、自分と同等、あるいは自分より若い存在としてケンちゃんをとらえ、共感したり、かわいいと感じたり、優越感を感じたりしながら笑っていたのだと思われる。また、外見はかわいい子どもの姿をしながら、「大人」のように振る舞うそのギャップもまた、幼児の笑いを誘っていたのだと思われる。そうして笑いながらも、知らず知らずのうちに、幼児たちは、交通ルールをはじめ、自分たちのあるべき姿についてのメッセージを吸収していったのではないかと推察される。幼児に直接「こんなこととしてはだ

め」と教えるのではなく、警察官 A がケンちゃんにそう教え、「みんなはもちろんわかってるよね」といった立ち位置で幼児たちに接することで、子どもたちも楽しい気分のまま、メッセージを受け取っていけていたように思われる。

幼児を惹きつけ楽しませながら、伝えたいメッセージを確実に伝えていく。それは、保育者に求められる大切な技術の1つであろう。確かに、保育者が警察官 A のような腹話術を習得することは容易なことではない。しかしながら、今回「ケンちゃん」にみとめられた「笑い」の要素は、工夫すれば、さまざまな形で保育者が自らの保育の中に取り入れていくことができるものであったと思う。

子どもたちの前に立ち、仲間の保育者と「スピード感のあるツッコミ」「スピード感のある相づち」といった「掛け合い」をすることもできるだろうし、「大げさな歌い方」、真面目な場面での「突然のリズムののった話し方」で子どもたちを笑わせ、楽しませることもできるだろう。人形劇の中で、登場人物に「道化的振る舞い」をさせる

表12 9つの「笑い」の要素と下位カテゴリー

9つの笑いの要素	下位カテゴリー	事例数
○掛け合い	・スピード感あるツッコミ	7
	・スピード感ある相づち	9
○歌	・大げさな歌い方	1
○話し方	・突然のリズムにのった話し方	1
○道化的振る舞い	・オーバーリアクション	5
	・無知	4
	・間違った理解・答え	9
	・おもしろい動き	3
	・トボケ	2
	・予想外な行動	1
	・繰り返す	10
○本音の発信	・腹話術へのツッコミ	6
○服装・身体でのおかしな恰好	・荒れた髪型	3
	・ありえない動作	2
●子どもっぽさ	・無邪気	9
	・正直	1
	・言葉の間違い	3
	・わがまま	2
	・行儀の悪さ	2
●大人っぽさ	・お世辞	3
	・現金さ	1
	・知った振り	1
	・おじさんチック	3
	・乙女チック	1
	・上から口調	6
	・真面目な発言	2
●雑な行動	・雑な世話	2
	・荒っぽい扱い	1

こともできるだろうし、ときに「子どもっぽく」ときに「大人っぽく」振る舞わせながら、子どもの共感を誘ったり、優越感を刺激したりしながら、メッセージを伝えていくこともできるだろう。

「ケンちゃん」に見た笑いの要素は、保育者が子どもの前に立って話すとき、あるいは、人形劇等を通じて何かを伝えようとするときに、参考にできる手掛かりを豊かに教えてくれるものであったと思われる。

引用参考文献

- 1) exit ニュース「交通安全教室でなぜ腹話術？」(2007年1月7日)
[<http://www.excite.co.jp/News/bit/00091168092506.html?p=2>]
- 2) 小町由香里「戦後日本の交通安全教育と腹話術—警察の中で花開いた演劇系気質—」『第83回日

本社会学会報告要旨集』(2010年), 146頁

- 3) 佐藤 建「漫才の笑い: 落語の笑いの要素との関連において」『笑い学研究』17号(2010年), 83-89頁
- 4) 毎日.jp「腹話術: 交通安全技能競う決勝大会—警視庁」(毎日新聞2012年7月7日地方版)
[<http://mainichi.jp/area/tokyo/news/20120707ddlk13040242000c.html>]
- 5) 山梨県警察「交通安全教育車『さちかぜ号』」
[http://www.pref.yamanashi.jp/police/pk_kikaku/sachikaze.html]
- 6) 山梨県警察本部「交通安全教育車『さちかぜ号』運用要領」(2007年3月30日)
[http://www.pref.yamanashi.jp/police/p_keimu/bunsho/documents/kouki2.pdf]

【付記】

本論文は、平成24年度大学評価・学位授与機構

提出論文に、加筆・修正を行ったものである。

【謝辞】

研究にご協力くださいました山梨県警察の交通安全教室ご担当者の皆様、X 幼稚園の皆様に心よりお礼申し上げます。